

令和7年度 下呂市公金運用実績報告書

～みなさまの大切な公金の管理・運用状況について～

1. はじめに

この報告書は、「下呂市公金管理運用基準」に基づき、令和7年度に下呂市がどのように公金を管理・運用したかをご報告するものです。市では、みなさまからお預かりした公金を、市の活動を支える重要な基盤と位置づけ、安全かつ効率的に運用しています。

2. 公金管理運用の「三つの基本原則」

公金の管理においては、どのような経済状況であっても揺るがない「3つのルール」を定めています。下呂市では、以下の優先順位（①>②>③）を厳守しています。

① 安全性（最優先）

元本（預けたお金そのもの）を絶対に減らさないことを最優先します。

② 流動性（いつでも使える）

日々の支払いや急な出費に備え、必要な時にすぐに現金化できる状態を保ちます。

③ 効率性（増やす）

上記の「安全性」と「流動性」を確保した上で、余った資金を有効活用し、少しでも多くの利息収入を得られるよう努めます。

3. 日々のお金の管理（短期運用）

市には、日々の支払いに使う「歳計現金」と、一時的に預かっている「預かり金（歳入歳出外現金）」があります。

これらは、いつでも支払いに使えるよう「安全性」と「流動性」を最重視しています。基本的にはすぐに引き出せる普通預金で管理しつつ、すぐに使う予定のない一時的な余剰資金については、数カ月程度の短い定期預金に預けることで、少しでも利息が得られるよう工夫しています。

表1 令和7年度 歳計現金【一般会計・特別会計（財産区除く）】・歳計外現金
の保管状況（月末残高）

※4月、5月は前年度出納整理期間分含む

単位：千円

月	月末現金残高	(保管内訳)		
		普通預金 (決済性預金)	定期預金	窓口釣銭資金
4月	532,333	531,668	0	665
5月	2,113,685	2,113,010	0	675
6月	4,272,004	1,271,329	3,000,000	675
7月	3,790,814	790,139	3,000,000	675
8月	2,938,860	538,185	2,400,000	675
9月	3,765,671	1,364,916	2,400,000	755
10月	2,724,844	824,089	1,900,000	755
11月	4,278,241	577,486	3,700,000	755
12月	3,253,134	752,379	2,500,000	755
1月	2,497,346	296,591	2,200,000	755
2月	947,913	174,158	800,000	755
3月	0	0	0	0
平均	2,592,904	839,450	2,190,000	718

表2 令和7年度 歳計現金の運用実績

単位：千円

年度	年間利息額	(保管内訳)	
		普通預金 (決済性預金)	定期預金
令和7年度	4,295	-	4,295
令和6年度	615	-	615
令和5年度	614	-	514
令和4年度	441	-	441
令和3年度	404	-	404

※ 決済性預金は、全額保全される代わりに利子が付かない預金

4. 将来への蓄えの運用（基金運用）

特定の目的のために積み立てている「基金」は、安全性を守りつつ「効率性（収益）」も意識した運用を行っています。

原則として、定期預金（5年以内）や債券（10年～30年以内）を活用し、各基金の現金を一括でまとめて運用することで事務の効率化を図っています。

① 運用益が大幅に増加しました

長らく続いた低金利の時代、運用益は年間1,700万円～1,900万円程度でしたが、令和7年度は4,842万円へと大きく伸びました。

表3 基金運用総額と運用益の推移

【一般会計・特別会計（財産区除く）】

単位：千円

年 度	基金運用額		運用益			平均利率	
		うち債券運用	定期預金	債券	合計	定期預金	債券
令和7年度	14,196,460	1,600,000	34,668	13,756	48,424	0.275%	0.860%
令和6年度	14,319,085	1,600,000	8,249	11,269	19,518	0.065%	0.704%
令和5年度	12,513,421	1,600,000	7,181	11,269	18,450	0.066%	0.704%
令和4年度	11,743,594	1,600,000	6,456	13,344	19,800	0.064%	0.834%
令和3年度	10,359,762	1,600,000	6,373	10,674	17,047	0.073%	0.667%

表4 運用商品の構成（令和7年度）

区 分	構成比率	備 考
定期預金	88.89%	主に市内指定金融機関等で運用
債券	11.11%	国債、地方債で運用

② 定期預金と債券の運用状況

・定期預金（全体の約89%）

運用の中心です。経営状態が健全で、市との連携がスムーズな金融機関を厳選して預けています。

・債券（全体の約11%）

国債や地方債など、安全性の高い債券で運用しています
（額面総額16億円）・

表5 債券運用状況

令和8年2月28日 現在

債券運用総額	平均利率	年間利息見込	単価	平均時価	時価総額	評価損益
千円		千円	円	円	千円	千円
1,600,000	0.904%	14,465	100.00	79.93	1,278,810	▲ 321,190

※表中の「評価損益」について

現在、帳簿上ではマイナス（評価損）となっていますが、これは近年の金利上昇により、保有している債券の市場価値が一時的に下がっているためです。

あくまで現時点での「帳簿上の計算」であり、実際に市のお金が減ったわけではありません。市では、債券を途中で売らずに最後まで持ち続ける「満期保有」を原則としています。満期（期限）が来れば、額面金額（16億円）は全額戻るため、元本の安全性は確保されています。

5. まとめ

（1）基本は安全第一

大切なお金を預ける金融機関の経営状況を常にチェックし、万が一の破綻時にも公金を守られる仕組み（決済用預金の活用など）を徹底しています。「元本割れ」や「資金不足」を起こさないことが最大の使命です。

（2）金利上昇を活かした運用へ

令和7年度は、金利の上昇局面をうまくとらえ、運用益を前年の約4倍に増やすことができました。また、令和7年12月にはルール（運用基準）を一部見直し、金利の変化に合わせて、より柔軟に有利な商品へ組み替えができる体制を整えました。

（3）今後の予定

これからも、市民のみなさまの利益となるよう、以下のバランスを大切に運用を続けてまいります。

- ・ 守る ：ペイオフ対策やリスク管理を徹底し、安全性を最優先します。
- ・ 備える：必要な時に資金が不足しないよう、流動性を確保します。
- ・ 増やす：中長期的な視点で市場の動向を見極め、効率よく運用します。

用語の説明

1、運用の対象となる資金

- ・歳計現金（さいけいげんきん）

一般会計や特別会計に予算計上された、日々の支払いに充てるための現金。

収入と支出の差額（余裕資金）が運用の対象となる。

- ・歳入歳出外現金（さいにゅうさいしゅつがいげんきん）

自治体が一時的に預かっている現金（例：所得税源泉徴収分、公営住宅敷金、契約保証金）。「歳計外現金」とも呼ばれる。

- ・基金（ききん）

特定の目的（例：将来の施設建設、災害対策、財源調整）のために、条例に基づいて積み立てている資金。

- ・余裕資金（よゆうしきん）

歳計現金のうち、日々の支払いに直ちに使用しない、一定期間運用に回せる資金。

2、運用方法

- ・債券運用（さいけんうんよう）

基金のうち、当面取り崩す予定のない資金を、国債、地方債、政府関係機関債などで運用すること。

- ・定期預金・普通預金（ていきよきん・ふつうよきん）

歳計現金や基金を、確実性の高い金融機関に預け入れる最も一般的な方法。

- ・一括運用（いっかつうんよう）

個々の基金ごとに管理するのではなく、複数の基金に属する現金を一つの運用資金としてまとめて運用することで、運用効率や債券購入の原資を確保する手法。

- ・決済性預金（けっさいせいよきん）

利息がつかない、いつでも払戻しできる、決済サービスが利用できるという3要件を満たす預金。金融機関が破綻した場合でも「全額保護（ペイオフの対象外）」される。

- ・窓口釣銭資金（まどぐちつりせんしきん）

振興事務所等出先機関の窓口で取扱う、証明発行等手数料の釣銭